

「USバンクローンファンド(為替ヘッジあり)2014-11」  
～今期の決算と今後の市場見通しについて～

平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

当ファンドは、2015年5月15日に決算を行ないました。当ファンドでは、市況動向や基準価額水準などを勘案し、今期の分配金(税引前、1万口当たり)を40円としましたのでご報告いたします。

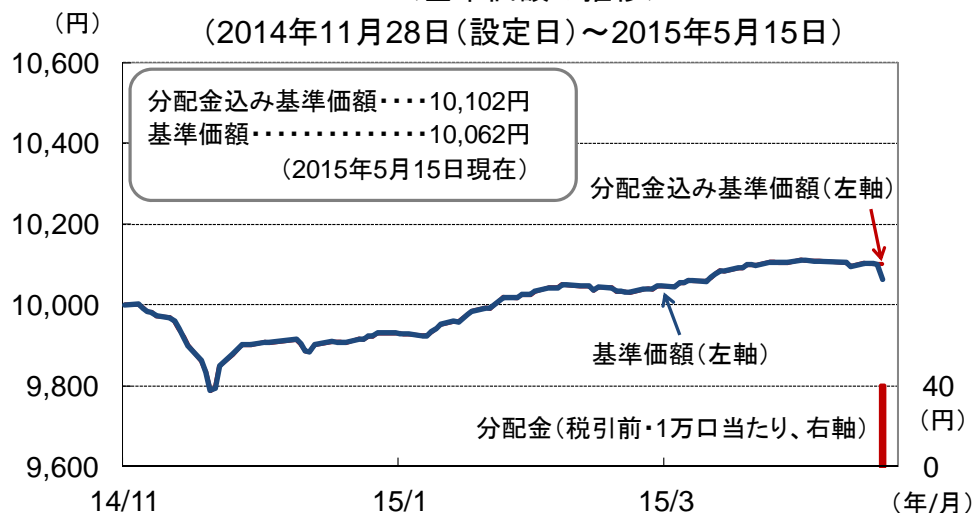
なお、次頁では市場動向および今後の見通しについてご説明申し上げますので、ぜひご一読ください。

今後も当ファンドをご愛顧くださいますよう、何卒よろしくお願ひ申し上げます。

＜当期の分配金＞

分配金(税引前、1万口当たり)	40円
基準価額(2015年5月15日現在)	10,062円

＜基準価額の推移＞



※基準価額は信託報酬(年率1.70802%(税抜1.5815%)程度)控除後の1万口当たりの値です。  
※分配金込み基準価額とは、当ファンドに分配実績があった場合に当該分配金(税引前)を再投資したものと計算した理論上のものである点にご留意ください。

※上記は過去のものであり、将来の運用成果などを約束するものではありません。

※分配金額は収益分配方針に基づいて委託会社が決定しますが、委託会社の判断により分配金額を変更する場合や分配を行わない場合もあります。

## 運用状況と今後の見通し

## 【最近の市場動向と当ファンドの運用状況】

2015年2月は1月の米雇用統計が強い内容となったことや、原油価格に下げ止まりの兆しが見られたことなどから、投資家心理が改善し、米国バンクローンも上昇しました。3月に入ると、2月の米雇用統計が堅調な内容となったことをきっかけにFRB(米連邦準備制度理事会)による利上げの前倒し観測が高まったことなどから、リスク資産の変動が大きくなる場面がありましたが、米国バンクローンは利子収入を中心に比較的安定して推移しました。4月は、月初に発表された3月の米雇用統計などが市場予想を大幅に下回る結果となったものの、月中に発表された米国の経済指標が予想を上回る良好な結果となったことや、原油価格が上昇に転じたことなどが市場心理の改善要因となり、米国バンクローンは上昇しました。また、米国バンクローンは、新規発行が減少した一方で、機関投資家等からの旺盛な投資需要が見られたことなども市場の下支え要因となりました。

このような状況の中、当ファンドの基準価額は、バンクローン市場の上昇や、金利収入を安定的に獲得したことなどを受け、堅調に推移しました。

## 【今後の見通し】

米国では雇用環境の改善や住宅価格の上昇に伴う資産効果が消費を押し上げ、自律的な景気の回復基調が続いており、年内にはFRBが利上げを開始すると見込まれています。一方で、欧州や日本については中央銀行による量的緩和政策が景気の下支えとなるものの、財政問題や雇用等の構造問題を抱える中で本格的な回復には時間を要すると考えられ、このように主要国間でも回復ペースに格差がみられる点には注意する必要があります。一方で、バンクローンの発行体(貸付先)である米国企業のファンダメンタルズは引き続き健全な状態にあり、これはデフォルト(債務不履行)率が低水準で推移していることにも表れています。また、バンクローンは相対的に高い利回り水準にあることに加えて、通常の債券と比較して金利変動による影響を受けにくいという特性を有しているため、利上げ局面でも対応可能な資産であることに注目する投資家からの需要が期待されます。

以上

上記は、当ファンドの投資顧問会社であるピムコジャパンリミテッドからのコメントをもとに、日興アセットマネジメントが作成しています。当コメントは、資料作成時点における市場環境について、運用担当者の見方あるいは考え方などを記載したものであり、将来の市場環境の変動や運用成果などを保証するものではありません。また、見解は変更される場合があります。